

平成28年度教育事業「第37期はなやまボランティアスクール」

1 趣旨

ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行うとともに体験活動の指導者や支援者としての技術とボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

2 目標

- 青少年教育施設におけるボランティアの役割とボランティア活動について理解する。
- 自然体験活動の指導方法や救命救急法と安全管理などボランティアとしてすぐに生かせる知識や技術を習得する。
- 参加者や先輩ボランティアとのふれあいを通して、ボランティアとしての意欲を高め、研修終了後ボランティアとして活動する。

3 主催

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

4 期日

平成28年5月28日（土）～5月29日（日）【1泊2日】

5 場所

国立花山青少年自然の家 及び 施設周辺フィールド

6 参加対象と募集人数

高校生以上のボランティア活動を志す方（一般成人・学生・高校生） 30名

7 参加状況（申込み総数 55名 キャンセル5名 参加者総計 50名）

	宮城県		合計
	男	女	
高校生	6	11	17
大学生	10	16	26
専門学校	3	1	4
社会人	2	1	3
合計	21	29	50

※募集数30名であったが、受け入れが可能と判断し、参加者を50名とした。

【参加者の所属先】

- ・東北生活文化大学高等学校
- ・宮城県石巻西高等学校
- ・宮城県工業高等学校
- ・東北福祉大学
- ・東北学院大学
- ・尚綱学院大学
- ・宮城学院女子大学
- ・宮城誠真短期大学
- ・仙台高等専門学校名取キャンパス
- ・仙台子ども専門学校

8 日程

	5月28日(土)	5月29日(日)
午前	受付 9:10 開講式 9:40 <説明Ⅰ> 9:50～10:50 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 [担当] 国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 島貫 織江 <講義Ⅰ> 11:00～12:30 「青少年教育」 [講師] 学習院大学文学部教育学科 教授 長沼 豊	朝のつどい 7:15～7:30 <講義・演習Ⅱ> 9:00～12:00 「普通救命講習Ⅰ」 [講師] 栗原市消防本部警防課警防課 職員 3名
午後	<講義Ⅱ> 13:30～15:00 「ボランティア活動の意義」 [講師] 学習院大学文学部教育学科 教授 長沼 豊 <講義Ⅲ> 15:10～16:10 「青少年教育施設の現状と運営」 [講師] 国立花山青少年自然の家 所長 松村 純子	<説明Ⅱ> 13:00～14:00 「登録制度について」 [担当] 国立花山青少年自然の家 事業推進係 庄子 佳吾 <閉講式> 14:20 「修了証授与」
夜	[講義・演習Ⅰ] 16:50～20:50 はなやまプログラム体験 「野外炊事～カレーコンテスト～」 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員	

9 実施状況

(1) 企画・運営のポイント

- ①ボランティアへの理解を促し、活動するボランティアを増やすための広報活動。
 - ・担当者への説明、講義の一部を利用した広報活動などで、高等学校や短期大学、大学等へ参加を積極的に呼びかける。
- ②教育事業、研修支援事業へのボランティアの参加意欲を高める。
 - ・座席の工夫、野外炊事の内容の工夫など、参加者同士の関係性が深まるようなプログラム構成を考える。
 - ・指導、指示の場面で先輩ボランティアを活用し、先輩ボランティアと参加者を関わらせることで縦のつながりを作る。
- ③各施設で共通したボランティア養成カリキュラムを実施する。
 - ・東北国立施設間で職員の派遣を行い、指導に携わりながらプログラム構成について情報交換を行う。

(2) 実施状況

【1日目】



①開講式「国立花山青少年自然の家所長あいさつ」



②説明Ⅰ「青少年教育施設におけるボランティア活動」の一場面



③講義Ⅰ「青少年教育」、講義Ⅱ「ボランティア活動の意義」の講義を行う長沼 豊教授



④お互いの経験を振り返り、伝え合う



⑤講義Ⅲ「青少年教育施設の現状と運営」の講義を行う松村所長



⑥講義Ⅲの一場面「子どもとの関わり方トレーニング」での発表



⑦講義・演習Ⅰ「はなやまプログラム体験～野外炊事～」で説明を行う先輩ボランティア



⑧那須甲子青少年自然の家職員より安全な薪割りを学ぶ



⑨課題「特選素材を取り入れたカレーコンテスト」に取り組む



⑩来上がった特選素材カレーをグループで味わう

【2日目】



①朝のつどいで司会、旗係を担当し、自己紹介をする



②講義・演習Ⅱ「普通救命講習Ⅰ」で消防署員から説明を受ける



③心肺蘇生法の実践練習に取り組む



④AED の利用について実践練習に取り組む



⑤閉講式で修了証を受け取る



⑥全日程を修了した参加者

10 成果と課題

(1) アンケートの結果

[参加者の満足度 (アンケート回収率 100.0%)]

単位：%

設 問 事 項	満 足	やや満足	やや不満	不 満
事業全体をとおしてはどうでしたか。	78	22	0	0
事業のプログラムはどうでしたか。	70	30	0	0
事業の運営はどうでしたか。	84	16	0	0
職員の指導・助言はどうでしたか。	80	18	0	2
ボラの指導・助言はどうでしたか。	84	16	0	0

参加者50名に対して事業後に行ったアンケート調査の集計結果は、表のとおりであった。5つの項目全てにおいて、「満足」「やや満足」が高い割合を占めた。しかし、講義に動きが欲しいという要望や、もっと施設周辺のフィールドを活かした自然体験を行いたいという要望もあった。共通カリキュラムということで定められた内容になるが、参加者の意見も取り入れてよりよい内容に見直していくことが望まれる。

(2) 成果

- 青少年教育施設におけるボランティアの役割と活動について、主に講義を通して参加者に理解を促すことができた。また、当施設を含む施設の現状と運営については、参加者がイメージしにくいものもあったが、資料を活用しながら理解を促すことができた。
- 演習場面では子どもとの活動を想定しながら取り組み、野外炊事や普通救命法講習を通して、自然体験活動の指導方法や安全管理についてボランティアとして生かせる知識や技術を習得することができた。
- 参加者同士もしくは参加者と先輩ボランティアとが関わる場面を多く作ることで、人間関係を深めることができた。多くの参加者が研修終了後に本施設でボランティアとして活動したいと希望した。
- 講義Ⅲ「青少年教育施設の現状と運営」の中で、実際に子どもと関わる場面を想定し、「子どものかかわり方トレーニング」「個人情報保護について」の演習を行ったところたいへん好評だった。実践的な内容で参加者が主体的に取り組んでいたため、このような実践場面を想定した研修内容を多く持つことで、意欲を喚起しながら理解を深めることができることがわかった。
- 事前の大学訪問等の成果により、多くの参加者が集まった。いろいろな大学、校種が混ざっており、校種、年齢を超えて研修を進めることができた。

(3) 課題

- ・今後より細かく事業を評価し、次に繋げていくために各コマの評価があるものにするなど、参加者アンケート用紙の見直しが必要である。
- ・「講義」では講話が中心となる場面が多く、高校生にはわかりづらいものもあった。参加者の年齢構成を踏まえて、ところどころ動きのある活動を入れてもらうことなど、より綿密に打合せを行うことが必要である。
- ・今回の参加者50人がより多く事業へ参加してくれるように働きかけるとともに、ボランティアが活動できる場の設定をしていく。
- ・先輩ボランティアスタッフの活用はよかったが、打合せを綿密に行い職員が指導すべきところ、ボランティアに任せるところをより明確にしていく。
- ・広報活動により、多くの参加者を得ることができたが、宮城教育大学他、より様々な学校から参加者が集まるように工夫していく。